

## 亀岡市新火葬場整備検討審議会（第5回）議事録

- ◆日 時：平成29年11月29日（水）、10時00分～12時30分
- ◆場 所：亀岡市役所2階、202・203会議室
- ◆内 容：○アンケート調査の結果について
  - 次世代ワークショップの結果について
  - 新火葬場の整備内容について
  - その他

- ◆出席者：楨村会長、武田副会長、塚本委員、井上委員、田中委員、竹内委員、齋藤委員、櫻井邦男委員、田村委員、山本委員、山口委員、伊藤委員、小川委員、中道委員、坂口委員、立花委員、中村委員、中澤委員、中井委員、廣瀬委員、並河委員、竹村幹事、柏尾幹事 [委員：25人中21人出席]

### [審議事項]

#### ●アンケート調査の結果について（資料-①に基づき事務局から報告）

（委員）アンケート調査の結果について、「必要」と「必要ない」の回答が80%以上など、多数の回答については特に問題ないと思うが、同数等の回答については今後も検討が必要。また、問4視察先の感想は「良い」・「良くない」を分けて記載すればわかり易い。

（会長）先進地視察について今回2箇所実施したが、たくさんの施設があります。他の火葬場も参考にしても良いのかなと思います。

（委員）新火葬場整備について、市外を含めた広域的か或いは市域という考え方があると思うが、今回視察した2箇所について、1箇所は平坦地で交通アクセスも良いところ。もう1箇所は山の中の静かで、落ち着いた雰囲気火葬場で対比ができて参考になった。アンケート調査については、整備内容をまとめていくためにも記名式でも良かったのかなと思う。

（副会長）視察の回答（感想）を見ていると、篠山に良い印象を持たれているように思います。次の設問で建物デザインが必要かは半々で、景観に合ったデザインが必要かについては大半が必要となっています。この結果からも篠山に好感を持たれたものと思います。いずれにしても亀岡に合ったデザインを望んでおられると思います。

(委員) 筑紫の丘は平坦地で外部から見やすいところにあり、建物デザインを重視されたのではないかと思う。篠山は山の中であり、周辺に合ったデザインにされたのかと思う。

(委員) 結果が均衡しているアンケート内容について、もう少し時間をかけて議論いただくことが必要かと思う。

(会長) そうですね、今後話し合ってくださいということになります。

(委員) 建物デザインについて、亀岡らしさを出すにはフラット（平坦）な場所であれば良いが、篠山のような山の中では旅立たれる方の尊厳を重んじるようなプランを設定してほしいと思います。

(委員) ワークショップの中でも直送の話が出ていた。先日、民間葬儀社のチラシが入っていたが、今後増えてくる可能性があると思われるので議論をしてもらいたい。コスト低く、小家族には必要になってくるのではないか。

(会長) 私もワークショップの前に全国的な傾向や社会の変化を伝えさせていただきました。全国的にみても、小家族等直送にならざるを得ない状況があるようです。それによって施設も変わってくることになります。

(委員) 今後は直送等が主流になるような気がする。核家族、一人住まい、或いは同居していても面倒見きれない状況がある。火葬場で葬儀を兼ねるような施設よりも、小規模な葬送が主流になってきているので、そうした葬送の変化（ニーズ）を検討する必要があると思う。景観は配慮したとしても大きな施設よりシンプルな施設が良いのではないか。

#### ●次世代ワークショップの結果について（資料－②に基づき事務局から報告）

(委員) 葬送について、年間約10件の葬儀に参加している。葬儀業者を利用すると最近では送る人の映像などを流す等のサービスを行っている。このような内容を市でも対応可能なのか。多目的な会場も必要かと思う。

(委員) 民間の葬儀業者も新火葬場の検討をご存知かと思うが、市と何らかの接点はあるのか。

(事務局) 現在のところ、接点を持っているようなことはありません。

(委員) 篠山の内容と合致すると思われる。葬儀式場の運用について質問すると、業者に任しており市は行ってないとの回答でした。

(委員) いろいろな葬祭業者があり、施主と業者が霊柩車、花等を予算に応じて内容を決められている。食事、音楽など故人の送り方を会葬者が満足できるようにされている。それは民間業者と会葬者に任せることで、市は火葬業務に専念すべき、そうしたすみ分けをする方が良いと思います。

(会長) 市がサービスをするのではなく、多様な使い方を受け入れる施設整備を検討することが重要になってくると思います。

(委員) 市は設備（ハード）を準備すること、ハードとソフトは別に考えることですね。

(委員) 将来的なことを考えると家族が減っていく核家族化です。アクセスが便利になり子供が東京などへ出て行くと家族が二人に、そして最終的には一人になってしまう。結果、葬送は周辺の区や自治会が葬送を行うことになる。そして、施設は告別室や霊安室などを備えた素晴らしい施設を整備し、業務を民間に委託することで多様なサービスが可能になるかと思います。火葬場のイメージを持たない火葬場を整備する、図書室や音楽が流れる魅力ある施設整備により多くの人が集うような施設整備を望みます。「火葬場か」というイメージを持たれるのは今だけにしてもらいたいと思う。

(委員) ワークショップに参加した感想として、世代によって葬送感が異なると思いました。家族、親族、友人等がたくさんおられるので、多くの方とお別れができるスペースが必要とされていること、一方で私達若い世代はコンパクト志向であります。付き合いの数が少ないこともあるが、なるべく迷惑を掛けないことや親族だけでいいとか。これは結婚式にも表れていて、家族だけでコンパクトに式を挙げて、二次会は友人を集めて少し派手に行うなどです。また、共通点としては施設で過ごす葬送時間を故人のことを思って過ごすことでした。個人的には手紙を書けるスペースや本が置いてあるスペースなどあればいいなと思いました。

(委員) 参加したワークショップグループの若者世代は立命館大学の建築専攻

の学生でした。亀岡のまちのこと等を話していると、景観に合ったデザインとか故人の尊厳を活かしたデザインとか、経験はないが亀岡の現状を受け止めて、火葬場整備を真剣に考えて良い意見を出してもらい、参考になりました。

●新火葬場の整備内容について（資料－③に基づき事務局から説明）  
〔アンケート結果を基に資料作成〕

（会長）どのような答申が必要か資料で示してもらったが、今後整理していかないといけないと思います。内容について何かございますか。

（委員）運営戦略について、市外を受け入れる内容としているが、どれだけの物（施設規模）が必要なのか分からない。受け入れるのであれば共同で立ち上げて計画するべきではないのか。市の施設として市民が迷惑する。

火葬炉数を5基としている。視察先で質問した際1日に1炉で2人の火葬が可能ということであった。MAXでいうと1日に10人の火葬として年間で3,650人の火葬ができることになる。亀岡市の死亡者数は1,100人でないのか。なぜ5基必要なのか、4基で十分だと思う。

整備箇所にその他の山間地とあるが、場所を明確にしないと審議会の議論が進まず答申ができない。

（会長）市外の受入れについて、市外からの利用は利用料金が高くなる。経営の観点からはどうかという議論もあります。他市では、市外も受け入れしているところもある。近隣他市の全部を受け入れる場合もあるが、そうではなく一部で交通の利便性や火葬場の空き状況等で他市の火葬場を利用することがあります。しかし共同となれば自治体間で1からの話になる。また火葬場整備の時期との整合などいろいろと検討する必要があると思います。この内容について事務局どうですか。

（事務局）運営戦略・ターゲットの設定について、考え方としてこれまでの審議会でもあったと思いますが、隣接する市町村の受入れをするのか、若しくは亀岡市の需要を中心に考えていくのか、これにより設備の内容が変わることになりますので、資料で示しています。

それから火葬炉の5基については、これまでの審議会でもお示ししていました。現在3基で、ピークが平成30年代後半から40年代にくるということで需要を見込み4基、そして予備炉を加えて5基とする説明をしていました。審議会の検討の中で最終的に4基ということもあるかと思いますが議論いただき

たい。整備箇所のおも山間地の場所については、現段階で示していません。整備箇所候補地の案については、これまでの協議内容やアンケートの中の意見としてお示ししており、市として示したものではありません。

(会長) 整備箇所についてそれぞれの状況がどうなっているのか。運営について共同で立ち上げて共同で事務組合をするのか。または亀岡市が整備して市外の方を利用させてあげるのか。

(事務局) 会長から共同立ち上げに係る事務組合のお話がありましたが、それについて市は考えていません。

(委員) 運営戦略、共同運営の可否、場所等を審議会で示すべきなのか。市長からの諮問にフリーハンドでやるのかどうか。火葬場予定地は30年来結論が出ていない、これまで市議会でも欠かさない案件である。それを審議会に丸投げされるのは疑問である。

(会長) 今日は場所をどうするかという検討の場と思っていません。アンケートやワークショップで出された意見を検討して、終焉の場所となる火葬場施設をどのようにしていくか。それにはどこの場所が相応しいかということを議論いただきたい。場所の3箇所はどのように出されたのか。

(事務局) アンケート、ワークショップで出された意見を基に作成したものです。おも山間地については、明確な場所は示していません。

(委員) 資料に審議会のスケジュールが出ている。12月中に中間案をまとめて最終的に3月に答申となっているが、残り限られた3ヶ月、4ヶ月の期間でこのスケジュールを消化できるのか。

(事務局) 本日の協議・審議等を踏まえて、日程的に厳しくなることが予想されます。年度を跨いでも協議継続の必要があると思います。資料については、当初の予定・目標を含めて年度内の答申としていますが、審議状況によって年度を越えても行っていきたくないと考えています。

(委員) 市民のためにゆとりある火葬場整備を十分に議論すべきで、スケジュールの期限にこだわる必要はないと思います。

(委員) 余部町丸山について、平成10年3月に新火葬場整備用地として都市計画決定とあるが、これを安易になしにすることは可能なのか。

(事務局) 都市計画決定が平成10年3月ということを示しています。当初、諮問の中で都市計画決定を含めてゼロベースで議論いただきたいとお話をさせていただいています。平成10年3月からしばらく時間の経過がありますが、都市計画決定は大きな経過の一つであり、それを踏まえて議論いただきたい。

(会長) 整備場所の考察方法として、評価項目を設定して場所の選定を議論してはどうかと考えています。 ⇒ [評価項目資料を追加配布]

(委員) 資料に下矢田と丸山が出ているが、下矢田はこれまでの経過からしてなし、丸山はゼロベースの発言でなくなったはずなのに資料に出ている。ここ以外を議論するべきではないのか。

(副会長) アンケート調査から出てきた場所を出していますが、これで結論を出しましょうということではなく、評価する項目を議論いただければと思っています。

(会長) 評価するにあたって、どのような項目がよいか議論いただきたいと思って客観的に考えた訳です。

(委員) スケジュールが出ていますが、今の時点ではアンケートやワークショップで出たいろいろな意見をもう少し時間を掛けて細部に渡って議論すべきで、その上で結論を出すべきかと思います。場所についても経過がある中で結論有りきは、おかしいと思います。

(会長) アンケートの意見に場所が分からないと考える意見があったので、場所選定方法として提案したものです。本来こういう案件は、ワークショップやアンケートでこういう施設が良いなという基本構想があります。基本構想そして具体的な計画・実施計画へ進んでいく。大事なことは、皆さんの思いをどう活かすのかということでアンケートやワークショップを行ってきた。これを1年で議論するのは無理があると思います。そこは事務局どうですか。

(事務局) 今日の議論を踏まえながら、日程の変更については、軌道修正しな

から進めて行きたいと思います。ただ施設の内容、建物、場所は避けて通れないお話しでございます。今日一定のお示しをさせていただきましたが、今後議論をお願いしたいと思います。

(会長) 出ている場所は別にして、評価項目を議論いただきたい。どういう要素・条件から議論するのが良いのか、適地を探す時に行うことがあります。

(委員) 第1回審議会で、会長・副会長を含めて審議会全体で過去の経緯・経過を知ってもらわないと答えが出ないと言いました。先程会長は基本構想があつてと言われたが、今から基本構想をつくるように思える。

施設をどうするのか、ワークショップを含めて設備、建物、広さなどの会議には参加している。しかし最後の資料には3つの場所が出ている。過去の経緯・経過の中で、下矢田には長い間迷惑をかけたということで丸山に都市計画決定された。それも市長のゼロベースの一言で丸山と下矢田はないと思っている。

以前他の委員が、場所が決まらなないと答えが出ないと意見を言われた。会長に聞きます、場所は誰が決めるのですか。

(会長) 私は座長で決定者ではありません。審議会は答申を出すところで、その答申が行政の決定ではありません。しかも場所は私には荷が重いのですが。

(委員) 一番初めに亀岡市は篠町と決めました。それは物理的要素や反対により流れた。亀岡地区にきました、亀岡地区でも20数年前に裁判が起こり答えは棄却ということで裁判所が判断することではなく、地元で決めなさいということで結果的に敗訴・勝訴ではなかったと思います。問題は建物をどうするか等は誰でも議論できる。しかし場所となれば誰が議論するのですか、多数決で決めるのですか。最後に出された資料は理解できない、審議会で決めるのですか。

(会長) それは私の範疇にありませんので、事務局にお任せします。

(事務局) 当初の諮問の中で、現在の社会情勢を踏まえながら火葬場の建設場所及び規模・内容等について意見を求めるとしてあります。答申を受け、最終的には亀岡市が決めることとなります。

(会長) 意見を言うだけですか。本来審議会は、市が提案してそれに対して審議し、答申するものだと思います。それがないので議論が難しいことになって

いる。専門家としては、火葬需要のピークまでに整備してもらいたいということです。最終的には審議会として施設や場所を答申しなければならないと思いますので、今後、スケジュールを含めて事務局と検討しながら進めていきたいと思っています。

(事務局) スケジュール含めた今後の進め方について見直しをして、次回審議会のご案内をさせていただきたいと思います。

(副会長) 長時間お疲れ様でした。前半は、どういうものが必要かということで、議論では具体的にいろいろなイメージもありました。マネジメントを含めて公園との繋がりなど、中には音楽ホールという話がありました。イギリスの土葬の火葬場ではチャペルがあり、森が見渡せるような場所で実際に音楽隊がある施設もあります。後半は議論の内容でご迷惑をお掛けした部分もありましたが、火葬場整備に向けて今後もよろしく願いいたします。

〈 12 : 30 終了 〉

◆次回(第6回)は、第5回の審議結果を踏まえて、整備内容等を再度検討・審議する。

以 上